

燕市 農業委員会だより

農業者年金特集号

「田んぼアート 2020」(吉田ふれあい広場 西側の水田)
(写真提供: 西蒲原土地改良区)

令和2年9月/燕市農業委員会編集・発行
〒959-0295 新潟県燕市吉田西大田1934番地

電話 0256-77-8251 (直通)
FAX 0256-77-8504

ホームページアドレス
http://www.city.tsubame.niigata.jp

「農業者年金」 加入のすすめ

燕市農業委員 山上 忠
(農業者年金加入推進部長)

毎日の農作業で汗を流しておられる農家の皆さん大変お疲れ様です。
ところで、皆さんは老後の生活の備えを考えておられますか。

日本人の平均寿命は年々延びています。そこで皆さんに農業者年金の加入についてお知らせします。加入要件は、国民年金被保険者の方、年間60日以上農業に従事している方、60歳未満の方、以上3つの要件を満たす方などなたでも加入できます。保険料の額も自由に決められ、月2万円から6万7千円までの間で設定でき経営状況や自分の老後設計に合わせていつでも見直すことができます。

また、保険料は全額、社会保険料控除を受けることができ、税制優遇措置も受けられます。

このように、様々なメリットをご理解いただき、楽しく生きる老後のために、是非加入をおすすめいたします。

加入のご相談は、身近な農業委員
またはJAにお願いします

新人農業委員 の一言



燕市農業委員
明田 栄以知 (白山町3丁目)

昨年の12月に農業委員に就任させていただきました。声をかけていただいた方々に少しでも報いることができるよう、重責に身の引き締まる思いであります。就任してまだ8ヶ月しか経過しておりませんが、今年に入り新型コロナウイルスの影響で年間予定されている協議等、軒並み中止及び延期の状況であり勉強の機会がほとんどない中で、総会等が有意義な機会と前向きに捉えています。

私の集落も含め農業に携わる耕作者の高齢化と担い手不足は喫緊の課題であり、農業委員会の果たす役割も大きいと考え、地域農業発展のため、微力ではございますが担当する仕事を精進していくことが役割と思っています。

農業委員会活動もまだ分からない事ばかりですが、諸先輩委員のご指導をいただきながら、お役に立てるよう努力し取り組んでいきたいと思えます。

どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

昨年に続き「年金特集号」の第3号を発行しました。

新型コロナウイルスが収束を見えないなかで、年金の重要性が認識されています。「農業者年金」への加入をお願いします。

新型コロナウイルス対策のために各種作業が縮小されている中で、今回は特色ある農業に取り組んでいる方の紹介や新人農業委員の紹介やその他お知らせを掲載しました。

これからも目に見える農業委員会を目指し、「農業委員会だより」などを通じて皆様に活動内容を紹介して参ります。

広報委員長 金山 吉夫
広報委員 原田 國太郎/長谷川 治 仁
廣野 和夫/山浦 博
澤口 義明

超極早生品種 「五百川」に挑戦

燕市農業委員 佐藤 春夫

私は兼業農家で2ha強作付けしています。10a、20a区画のほ場が多いため作業効率が悪く、その上水捌けもよくありません。

自然用水で水掛けも大変ですが、稲作は魅力的で止めることはできません。

昨年に引き続き「五百川」を私の仲間と2軒で62a作付けしました。「五百川」は超極早生品種で「コシヒカリ」の突然変異で、福島県で発見されました。味・香りがとても良く美味しいです。

5月1日に田植え、7月16日頃出穂、8月8日から10日で刈取りです。

余談ですが、佐賀県では、コシヒカリを3月から4月にかけて田植え、8月に稲刈りをし、その米は「セタコシヒカリ」と銘打って販売しています。

今年は、新型コロナウイルスの出現で、全ての産業に影響が及んでいることはご承知のとおりです。加えて今年は梅雨の期間が長かったため、農作物にも影響を及ぼしています。来年は「平穏無事」な年になるよう願っています。

全国農業新聞 全国農業新聞を購読してみませんか

全国農業新聞は、農業者の公的代表機関である農業委員会組織が発行する農業総合専門紙です。

「週刊」の時間を活かし、情報がわかりやすいように解説的にまとめています。

また、多くの読者の皆様に満足して頂けるよう、家族全員が楽しめる記事も充実しています。さらに、全国47都道府県にある支局の県版・地方版の充実により、地域の元気で特徴ある明るい話題や地域独自のイベント情報などの提供に努めています。

発行日: 毎週金曜日(月4回)
購読料: 月額700円(送料・税込)
申込先 農業委員会事務局/電話 0256-77-8251
(毎月15日までの申込で、翌月から送付いたします。)

ブータンの有機稲づくりプロジェクトに参加

私はブータンの有機稲づくりプロジェクトに参加しました。ブータンの稲作はちょうど昭和30年代の新潟県のようなのでした。棚田や傾斜地ばかりで、牛が大事な働き手ですが、耕運機も見かけました。ところどころに堆肥の置かれた風景も懐かしさを感じました。苗づくりは保温折衷苗代で、これらはかつての日本人の指導者西岡京治氏の影響でしょうか。

農業は初期の除草剤がはやり始めたと聞きましたが、ヒルムシロの繁殖には悩んで



おられました。ところが、ブータンは敬虔な仏教国ということで殺

生を避けるために殺虫剤はもちろんのこと、除草剤も使わない米作りを継続させようと日本の研究者稲葉光國先生がよばれたのです。

3年の期限付きで JICA が窓口になって派遣されましたが、私もボランティアに参加しました。初年度の2017年4月の苗代づくり、播種作業を手伝いました。5月には田植えチームが派遣され3年の期限も終了し、収穫を上げたとの報告もありました。



松橋 山口 均

農業がんばってます

私は専業農家で水稲 8ha、ねぎ、キャベツなどの露地野菜 1ha、トマト、ほうれんそうなどのハウス野菜 50aを生産し、水稲と園芸の複合経営を行っています。農産物は主に JAや市内の直売所、スーパーに出荷し地産地消を心掛けています。

家族構成は妻、息子、父、私の4人で農作業をしていて、息子はH30年に就農し、市内の若手農業者と連携イベントなどで農産物の販売をしたりしています。農産物の生産は気候に左右されるため、作付中の管理は大変ですが、少し手を加えると甘味や旨味が増し、新鮮でさらにおいしい食べ物になります。

さて、燕市でも依然として、担い手不足や高齢化の問題を抱えています。集落の話し合いの場で、出し手と受け手をう

まくマッチングできるように情報収集、提供活動に努めたいと思います。

また、将来の備えとして、早い時期から農業者年金に加入することをおすすめします。

井土巻 遠藤 忠夫



若手農業者の農産物直売会
一番左が遠藤さんの息子さん

農業者年金で安心で豊かな老後を!

農業者年金へは、
次の要件を満たす方ならどなたでも加入できます

**国民年金第1号
被保険者**

国民年金保険料納付免除者を除く。

**年間60日以上
農業に従事**

60歳未満

- あなたの老後生活への備えは十分ですか?
- 年金は家族一人ひとりについて準備することが大切です。
- 老後の備えは国民年金プラス農業者年金が基本です。

※1 農業者年金に加入される方は、国民年金の付加年金(付加年金保険料月額400円)加入が必要です。

※2 農業者年金と国民年金基金(旧みどり年金を含む)及び個人型確定拠出年金(イデコ)とは重複加入できませんのでご注意ください。

加入前

夫のみ加入の場合



加入前

後継者を
早く独り立ち
させたいなあ...



加入前

今年は収入が
良かったけど
税ってこんなに
かかるの?



加入後

夫婦で加入の場合



加入後

早い時期から
加入させて
良かった!



加入後

保険料を
控除できて
助かるなあ

